

22 第4回 芸術文化のタベ
鳥取大学芸術文化センターと
鳥取県観光局等の意見交換会
H19.4.26～

23

24 南村千里コミュニティダンス・ワークショップ
H19.7.16～18

25 アルテフェスタ2007 声楽演奏会 3rd
H19.7.31

26 歌とピアノのコンサート
～フッペルは知っている～
H19.8.10

27 平成19年度こころとからだのharmony
ポスター等デザイン
H19.11.4

28 コミュニティアート講座
―芸術をかじってみませんか―
H19.9～H19.11.3

29

30 レクチュア コンサートinアートプラザⅠ
春香―高木東六の音楽遺産
H19.10.19

31 平成19年度 アートフォーラム
「白磁の世界」
H19.10.21

32 レクチュア コンサートinアートプラザⅡ
「吉澤実～笛・古今東西」
H19.10.22

33 こころとからだのharmony
―ダンスがダンスをつれてきた！―
H19.11.4

34 鳥取オペラルネサンス
「先人たちの音楽物語」
H19.11.24

35

36 踊りに行くぜ!! vol.8 鳥取公演
H19.11.24, H19.11.25

37 アートフォーラム2007
場と人の関係をデザインする
～インターネット時代における若手建築家の冒険
H19.11.28

38 レクチュア コンサートinアートプラザⅢ
渡部正行「ノスタルジーと音楽」
H19.12.6

39 アートフォーラム2007
グラントワが目指すもの
H19.12.7

40 レクチャーシリーズ
山陰ならではのアートマネジメントを探る
H19.12.7, H19.12.12, H19.12.17

41

42 レクチュア コンサートinアートプラザⅣ
「What is JAZZ?」
H19.12.14

43 ミュージカル「北風のくれたテーブルかけ」
H20.2.22, H20.2.27

44 作曲工房「パパゲーノ」
～コレクション'08～
H20.3.8

45 「鳥の劇場」観客アンケート調査
H19.5.～H20.3

事業形態

講演

上演

展示

制作・創作

調査・研究

ワークショップ

その他

担当者名

開催期日・期間： / 場所：

財源： / 主催・後援・共催・協力など：

参加者数：

地域別





内 容

この会は鳥取大学芸術文化センターと鳥取県文化観光局等との意見交換会及び交流会である。

平成16年8月3日地域学部会議室において出席者13名で行なったのが出発点になっており、この会を第1回としている。

芸術文化センターと鳥取県及び地域の文化活動に熱心に取り組まれている人々との連携を一層推進することを願って行なわれているこの会は鳥取県文化観光局はじめ多くの自治体の文化芸術担当者が参加している。また、鳥取大学からは林理事、地域学部長、芸術文化センター教員の他、数人の参加者がある。現在はオブザーバーとして大学院生も交流会に出席している。

開催状況を第1回から第7回までをまとめると、右ページ「これまでの開催」のようになる。会の名称は第6回より「芸術文化の夕べ」としている。

成 果

回を重ねるごとに参加機関が増え、この会の重要性が増して来ている。自治体等の担当者と討論、交流の場を持つことは連携の広がりには有益である。

また、大学生がオブザーバーとして参加することにより、交流の機会を持つことは、多くのことを学ぶ機会になっている。



開催期日・期間：展示 H19.4.24 講演会 H19.1.21／会場：鳥取大学アートプラザ 他

財源：参加者負担

参加者数：29名～50名



その他

センター全教員



コミュニティダンスA(1回ずつの体験コース)

16日は海の日で、休日であったことから、児童から大人まで多くの参加者があり、楽しいクラスが繰り広げられた。島根県、兵庫県からそれぞれ1名の参加もあった。聴覚障害や知的障害のある参加者と一緒に、動きを真似たり、それをもとに工夫したりと、コミュニケーションとダンスの技術の両方を高め合った。

17日は、幼稚園教諭と、学生が中心であった。学生も大半が幼児教育を目指す人で、楽しみながらも、教材研究の目でとらえていた。

18日は参加者の数は少なかったが、中高年中心で、からだをほぐしたり、人に動かされるままに自然に柔軟に動くことを楽しむ充実した内容であった。

コミュニティダンスB(継続して3回受講のコース)

2・3人がクラスを出入りし、コース通して受講できなかったが、最終日にはシェアリング(観てもらい、意見をもらう会)を行い、10人のお客さんに観ていただいた。



参加者数

Aコース 7/16(32名:一般11(障2) 学生10 児童生徒11(障6)) 7/17(28名:一般11 学生17)
7/18(9名:一般8(高齢者1) 学生1)

Bコース 7/16(14名:一般11 学生3) 7/17(13名:一般11 学生2) 7/18(12名:一般10 学生2)

計(延べ)108名:一般62(障害者2 高齢者1) 学生35 児童生徒11(障害者6)

開催期間:H19.7.16~18 /会場:鳥取県立県民文化会館リハーサル室、小ホール、鳥取大学附属幼稚園

財源:鳥取県平成19年度県民自ら行う人権学習支援補助金

参加者数(内訳※上記詳細参考):(延べ)108名



事業内容

鳥取大学の声楽研究室で声楽を学ぶ大学院生、課外受講生などが日頃の声楽研究の成果を発表する場として、演奏会を行った。演奏者それぞれの個性に合った選曲がなされ、独唱においてはイタリア古典歌曲、オペラアリア、日本歌曲など、様々な分野の声楽作品が披露された。

成果

声楽を学ぶ学生らに、ステージで演奏する機会を提供することで、演奏技術や表現力の向上に寄与することができた。また、今回は重唱を取り入れたことで、出演者は普段のレッスンでは経験できないアンサンブルを体験した。この演奏会を通じて、出演者らの若さとエネルギーに満ちた演奏を、観客に聴いていただくことができた。



上演

西岡 千秋

開催期日：H19.7.31 / 会場：鳥取大学アートプラザ

財源：地域貢献支援事業

参加者数：約100名



事業内容

日南町日野上小学校で、これまでわが国に2台しか残されていないとされてきたドイツのフツペル製のピアノが確認された。このフツペル製のピアノが日野上小学校の教室で奏でてきた唱歌や童謡、当時の教師が出征の思いをこめて作詩をして歌われた曲などによる「歌とピアノのコンサート〜フツペルは知っている〜」を開催し、音楽を楽しみながらフツペルが歩んできた歴史をたどる機会とした。

成果

- ①日南町日野上小学校で確認された、国内に3台しか残っていない名ピアノ「フツペル」の音色を多くの人に聴いてもらうことが出来た。
- ②出征する教師等が作った歌を始め、戦前、戦中に歌われていた曲を演奏することで、音楽の素晴らしさを感じながら、地域の歴史認識を深め、平和への思いを新たにすることが出来た。
- ③鳥取県のほとんどの新聞など、多くのマスコミに取り上げられることにより、このコンサートの意義を広めることができ、その結果としてコンサート当初は不明であったフツペルピアノを寄付したという人物が判明した。



作詞した梅林彊輔



写真・資料提供：フツペルピアノコンサート実行委員会

日野上小学校(昭和3年当時)

開催期日・期間： H19.8.10 / 場所：日南町総合文化センター「さつきホール」

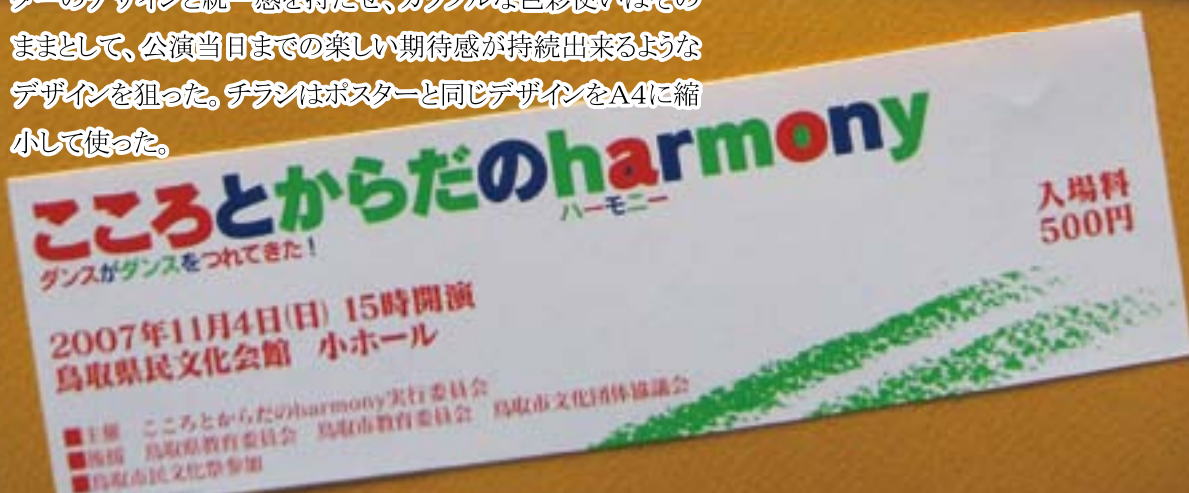
財源：鳥取大学地域貢献支援事業 / 主催：フツペルピアノコンサート実行委員会
共催：日南町・鳥取大学地域学部附属芸術文化センター・日南町総合文化センター
参加者数：入場者約450名、出演者：約90名、合計：約540名





■図柄は、本事業のタイトルである「こころとからだ」にダンスをもイメージさせる図柄を使った。目の粗い版画用紙にクレヨンで描いた図柄を使い、ザラリとしたテクスチャーの面白さを出した。また、タイトル文字や日時の数字なども文字としてと同時に図柄としてとらえて、カラフルな色彩を施して全体に楽しい雰囲気が出るデザインを狙った。

■チケットは来場予定者が公演当日まで手に持っていて、公演への期待感を持続させるための重要な手段である。ポスターのデザインと統一感を持たせ、カラフルな色彩使いはそのままとして、公演当日までの楽しい期待感が持続出来るようなデザインを狙った。チラシはポスターと同じデザインをA4に縮小して使った。



開催期日・期間： H19.11.4 / 場所：当該事業のページを参照

財源：当該事業のページを参照／
参加者数：当該事業のページを参照



平成18年度の事業より、「コミュニティアート講座」として開催したが、講座名がわかりにくく、受講希望者が、平成17年度までの「ミュージック&ムーブメントセラピー講座」に比べて少ないとの指摘があり、副題「―芸術をかじってみませんか―」をつけた。

受講希望者は昨年度に比べ、それほど増えなかったが、毎年楽しみに受講される方もあった。継続講座、発表という「丸かじり」のコースを設けたことは、好評で、時間の許す体験講座受講者が参加された。発表の達成感もあり、来年の参加を希望される方、口コミで広げたいとされる方、このような公演があったら観に行きたいと言われる方など、「成就感を味わったり、芸術活動や発表を身近に感じる機会」の提供、「芸術愛好者の拡大の方法を探る」という当初のねらいは、参加人数は少なかったものの、達成できたと考える。

継続講座では「ハーモニーをかじる」で練習する曲の内容より3講座の作品テーマを「葉っぱ」と、統一した。シェアリングは、11月3日に、県民文化会館小ホールを会場に行った。講座の作品以外に、西岡が指導する大学の授業「歌唱芸術表現」の受講生による作品と、鳥取大学ダンス部と舞踊家大樹とJOUによる作品、西岡が出演するオペラの一部も上演され、互いに見せ合った。デザイン作品はステージ上に並べた。

昨年までの1回だけの講座から、希望者は継続し、発表できるという講座への切り替えは、受講者が待ち望んでいたことと合致したことがわかった。参加者には、達成感を味わう機会となったばかりではなく、芸術の体験が心の解放やゆとりとなり、実生活の中にその効果が広がっていったとの、予想以上の結果を得た。また、大学の施設の開放が、市民にとって楽しさをさらに大きくしていることもわかった。

「ハーモニーをかじる」

- 素敵な歌を歌うための基礎を学ぶ
- 歌いましょう
 - ・ハーモニーを感じよう(基礎編)
 - 「もみじ」(岡野貞一作曲)を二部合唱で歌う
 - ・ハーモニーを感じよう(応用編)
 - (今回はメロディの練習、継続講座に続く)
 - 「誰かが小さなベルを押す」(やなせたかし作詞 木下牧子作曲)を歌う

参加者(アンケート結果より)

男性(2)女性(9) = 二部合唱を体験するには男女のバランスがある程度の必要

年代:20代(3)30代(1)40代(1)50代(1)60代以上(5)

担当:西岡 かじってみる講座 H19.9.4/★1
まるかじりコース H19.10.9・23・30/★1



開催期日及び会場は各報告に ★1…鳥取大学アートプラザ ★2…わらべ館イベントホール

- ①体験講座 かじってみる講座(9月火曜) ②継続講座 まるかじりコース(10月火曜)
③シェアリング H19.11.3/会場:県民文化会館小ホール





「うごきをかじる」

「遊びから表現へ〜うごきの表現を体験する〜」をテーマに進め、うごきの表現の楽しさを味わうことと、継続講座での作品づくりにつながるように、小作品を創って発表した。

○なべなべそこぬけ→二人で回る動きを捜す

○ビニール袋で自由に

○だるまさんがころんだ→走ったり止まったり→木と木の葉

参加者(アンケート結果より)

職業:学生2、無し2、幼児教育2、店員1、主婦1、畑作業1、自由業1(人)

年代:60歳代5、40歳代3、20歳代3、50歳代1、70歳代1(人)

受講者にとっての講座体験

「うごきの表現がどんなものかに出会った」「うごきの表現が身近になった」そして「機会があったらもっとやってみたい」を多く(9人)が選択した。またこの中に「公演があったら見たいと思った」を選んだ5人が含まれていた。講座の体験が、ダンス活動の継続への手がかりになり、観ることへの興味へもつながっていた。

ダンス作品は11月4日に開催したダンス発表会「こころとからだのharmony」でも、一般市民に向けて発表した。

担当:佐分利 かじってみる講座 H19.9.11/★2
まるかじりコース H19.10.9・23・30/★1

「いろをかじる」

前年度の講座と比較すると、今年度の講座には2つの大きな特徴を作り出すことができた。

第一は、三つの講座の終了時にシェアリングと命名した、それぞれの講座の作品を見せ合う機会を設けたこと。第二は、作品制作に木の葉を主題とするという、三つの講座に共通のテーマ性を持たせたこと。

シェアリングという機会が設定されたことで、講座の参加者は講座で勉強したり、作品を作る楽しみの機会を得ただけではなくなった。お互いに作品を見せ合うという明確な目的と緊張感を味わうことが加わった。逆に言うと、作品を作りっぱなしで終わることができなくなった。

しっかりと完成させて第三者に見てもらうという明確な目標が出来たので、本講座では、完成させた作品を額装して展示することとした。作品制作中の楽しさもさることながら額装した作品が一層引き立って良く見えることに受講生は驚きながらも喜んでいった。

また、木の葉という講座に共通の具体的な主題を設けたことで、受講生はイメージや発想のキッカケがつかみ易くなり作品化への展開がやり易かったようで、複数の作品を作った受講生も出現した。

受講生のために新たな体験の場を提供しようという意味で設定したシェアリングであり、大きな成果を上げたと思うが、一方で、楽しみや後学のためにという目的で受講した方の中には荷が重いと思われた方もあったようだ。第三者に見せられる作品が出来なかったという受講生自身の判断で作品の展示を辞退された方もあり、この点は今後課題として残った。

担当:平井 かじってみる講座 H19.9.18/★2
H19.10.9~30の期間に作品を仕上げ30日に額装



第五回鳥取県総合芸術文化祭「県民企画アートチャレンジ事業」のイベントとして、第1部に講演「春香——高木東六の音楽遺産」(講師:藤井浩基島根大学準教授)、第2部にオペラ「春香」などの高木東六作品のコンサートを行った。

第1部

米子出身の作曲家、高木東六の生涯をたどりつつ、その代表的な作品である、歌劇「春香」の成立、初演、作品としての評価などについて藤井浩基氏が講演した。

第2部

オペラ「春香」より抜粋して演奏したほか、高木東六の作品の中で最も広く知られている「水色のワルツ」を演奏。最後に質疑応答を行なった。

レクチャーコンサートシリーズ I ～IVを大学開放推進事業として実施したが、①地域住民が鳥取大学を訪れ、楽しみながら芸術文化に親しむ機会を提供することが出来た。②地域住民の鳥取大学に対するイメージアップ(芸術文化の発信、生涯学習への貢献、「ひらかれた鳥取大学」のアピール)をはかることができた。

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
レクチャー・コンサート・シリーズ Vol. I

歌劇「春香」 ——高木東六の音楽遺産——

◆ 第1部 ◆

島根大学准教授 藤井浩基氏

昨年102歳で亡くなられた高木東六氏の
生涯をたどりつつ、その代表的な作品
である歌劇「春香」について解説。

◆ 第2部 ◆

レクチャーコンサート

高木東六作曲 オペラ「春香」より

春 香*佐々木まゆみ

使 道*西岡千秋

ピアノ*中橋芳恵

高木東六作曲 「水色のワルツ」

佐々木まゆみ ピアノ*中橋芳恵

第5回鳥取県総合芸術文化祭「県民企画アートチャレンジ事業」
鳥取オペラ・ルネサンス 「先人たちの音楽物語」 プレイベント
本公演: 11月24日(土) 午後6時 開演 大人2000円◆学生1000円
プレイガイド ◆ 733 楽都本店/今井書店/0857-24-2856(中村)

■日時: 2007年10月19日(金)

入場料◆無料

開場 午後6時00分

開演 午後6時30分

問い合わせ ◆ 0857-24-2856(中村)

■場所: 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター アートプラザ I

■鳥取県アートチャレンジ事業について「県民企画アートチャレンジ事業」とは、地域で活動するアーティストが、自らの企画力や運動力を活かして、実際に魅力的な芸術文化の鑑賞機会を提供するため、企画公募を経て、鳥取県総合芸術文化祭実行委員会から委託を受けて実施する事業です。

主催: 鳥取オペラ・ルネサンス実行委員会/鳥取大学地域学部附属芸術文化センター/
鳥取県総合芸術文化祭実行委員会
共催: 鳥取県/鳥取県教育委員会/鳥取県文化振興財団/鳥取県文化団体連合会
後援: 在日本大韓民国民団 鳥取県地方本部/鳥取県東部地区 日韓親善協会
協力: 「春香」上演プロジェクト/赤い靴記念文化事業団/鳥取オペラ協会

開催期日: H19.10.19 / 会場: 鳥取大学アート・プラザ

財源: 大学開放推進事業 / 参加者数: 約60名
主催: 鳥取オペラ・ルネサンス実行委員会 鳥取県総合文化祭
共催: 鳥取県 鳥取大学附属芸術文化センター 鳥取県教育委員会 鳥取県文化振興財団 鳥取県文化団体連合会
後援: 鳥取県東部地区日韓親善協会 在日本大韓民国民団
協力: 「春香」上演プロジェクト 赤い靴記念文化事業団 鳥取オペラ協会 藤井浩基(島根大学)



事業内容

白磁作家(新匠工芸会会員、日本工芸会正会員)の前田昭博氏を講師に作家のアトリエ「やなせ窯」で講演会を開催した。参加者は鳥取大学正門に集合し、送迎バスにて現地入りした。資料代として参加費500円を徴収した。

仕事の現場で技法についてお話を頂いた後、展示室の作家作品の白磁を背景に、白磁の魅力や創作の現点についてお話を伺った。

成果

仕事場(やなせ窯)を訪問しての講演会は現場ならではの具体的な説明があり、また、講演もリラックスした中で聞くことができた。



開催期日：H19.10.21 / 会場：鳥取市鹿野町本鹿282 やなせ窯

財源：学内予算 / 後援・共催など：鳥取市鹿野町総合支所 NPOハーモニーカレッジ

参加者数：35名



「吉澤実く笛・古今東西」

レクチュア コンサート「アートプラザⅡ」

講演
上演

新倉
健



日本を代表するリコーダー奏者で音楽教育学者の吉澤実氏とリュート奏者の永田平八氏を迎え、中世音楽から現代音楽までの幅広い曲の演奏を、ユーモアを交えたわかりやすく楽しい解説とともに鑑賞した。特に、ソプラノリコーダーからクルムホルンまで、多くの種類の笛を聴衆に示し、その笛の歴史的な背景やエピソードなどを紹介しながら演奏したことから、一般聴衆にも大変たのしくわかりやすいレクチュアコンサートとなり、好評であった。



開催期日： H19.10.22 / 会場：鳥取大学アートプラザ

財源：鳥取大学開放推進事業 / 主催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

参加者数：約70名





(写真撮影:テス・大阪)

様々な個性を持って集まった人たちの、こころとからだが生み出すダンス作品発表会の4回目

プログラム

第1部

1. 幸せいっぱい 夢いっぱい
鳥取大学附属幼稚園(3・4・5歳児と先生) 44人
2. ワ・タ・シッテ...
城北リズムダンス(城北公民館活動) 8人
3. わ・わ・わ 楽しいWA!!
鳥取県立鳥取聾学校小学部 9人
4. 海とひかり
星のいり口(インクルーシブダンスグループ) 15人
5. 葉・PA・PA〜♪
コミュニティーアート講座受講生6人
6. 穂の香 光めぐりて
マエカワM&Aヘルススタジオ(前川逸子主催) 7人
7. 月に映して我を見る
ダンスコング 6人

第2部

1. 籠の中の一人称 bー半音下がる
24(貳拾四)(鳥取大学芸術表現コース卒業生)3人
2. relate
EAsy (ダンスコング+ADM+鳥大院生)3人
3. 3days+
ワズブリ(oiseaux pris=取られた鳥達)
(JOU/大樹/鳥取大学ダンス部+α)約50人
【振付】 JOU/大樹
【演奏】 松本充明(ライブエレクトロニクス)

観客からいただいた言葉で最も多かったのが、「元気をもらった」だった。ケーブルテレビでは、6日の火曜日のニュースで、何度もその様子が流されたが、アップされた顔はどの出演者もいい顔で、こころとからだと一緒に踊っていたと感じられた。

上演

佐分利育代

開催期日: H19.11.4 / 会場: 鳥取県民文化会館小ホール

鳥取市民文化祭参加 こころとからだのharmony実行委員会(ダンスコング、鳥取大学地域学部附属芸術文化センター、星のいり口)

参加者数: 本文中を参照





事業内容

鳥取県ゆかりの先人(杉谷代水:境港出身、高木東六:米子出身)の創造したすぐれたオペラ作品を発掘し、鳥取県民の手によって再発信した。

第5回鳥取県総合芸術文化祭における「県民企画アートチャレンジ事業」に採択され、鳥取大学大学院生および学生を中心とする実行委員会が企画・運営を行った。

プログラム

第一部「先人たちの音楽物語」(音楽と演劇)

出演:杉谷代水(林憲二)、高木東六(松本健一)

ソプラノ:尾前加寿子 ピアノ:仙田真帆

「星の界」杉谷代水 作詞/ Charles Crozat Converse 作曲

「The Entertainer」Scott Joplin 作曲

「水色のワルツ」藤浦洸 作詞/高木東六作曲

オペラ「熊野」より合唱 杉谷代水 作詞/中村奈保 作曲

オペラ「熊野」より熊野の独唱 杉谷代水 作詞/東儀鉄笛 作曲/中村奈保 編曲

「早稲田大学校歌」相馬御風 作詞/東儀鉄笛 作曲

第二部 高木東六 作曲 オペラ「春香」上演(抜粋)

演出:中村敬一/編曲・指揮:新倉 健

出演:春香-佐々木まゆみ/夢龍-山本耕平/使道-西岡千秋/香丹-浜中雪絵/房子-山田康之/月梅-米澤 幸

ナレーター-西岡千秋/池澤正子ダンス・アカデミー/鳥取オペラ・ルネサンス合唱団/鳥取オペラ・ルネサンスオーケストラ



開催期日: H19.11.24 / 会場:鳥取県民文化会館小ホール

財源:鳥取県総合芸術文化祭実行委員会 鳥取大学地域貢献支援事業

参加者数:入場者約200名



成 果

- ①鳥取県ゆかりの杉谷代水、高木東六のすぐれたオペラを県民の手で上演し、二人の芸術家を顕彰することができた。第一部では杉谷代水と高木東六が時を越えて千代川のほとりで出会うという設定のドラマリーディングによって、二人の先人のオペラについてこぼれ話等を交え分かりやすく解説して関連する音楽を演奏・紹介した。第二部のオペラ上演に対しては、「こんなに優れたオペラを県出身の人が作っていたのを知って驚いた。」「ぜひ、全曲を大きな舞台上で上演して欲しい。」「韓国でも上演したら。」などの感想が聞かれた。
- ②地域で舞台芸術作品上演を企画・運営していくための若い世代の人材を育成することが出来た。「鳥取オペラ・ルネサンス実行委員会」として事業の企画・運営を担ったのは、鳥取大学地域学部の大学院生及び学部生であった。鳥取県総合芸術文化祭実行委員会のプロデューサーがアートマネジメントの側面から企画・運営のアドバイスをを行い、鳥取大学附属芸術文化センターの教員が専門的な立場から事業内容の芸術面（音楽・演出・舞台制作全般等）について学生達に指導・助言すると同時に、演奏及び指揮を担当した。この事業を実施することを通じて、学生達は地域で舞台芸術作品を企画・運営をしていくための知識や技術を実践的に学ぶことができた。

課題など

- ①第一部が短すぎて、もう少し詳しく二人のオペラの内容を扱うべきであった。
- ②総合芸術文化祭には多くの催しが集中的に開催された上に、当日は「鳥取オペラ・ルネサンス」と同時刻に鳥取市民会館に於いて鳥取県文化振興財団主催のコンサートが重なったために、聴衆が分散したと思われ、入場者が200名に留まったのは残念であった。今後は同系統の催しの日時を分散させるなどの工夫が必要と思われる。



事業概要

廃校小学校および旧幼稚園舎を活用した「鳥の劇場」において、コンテンポラリー・ダンスの公演を、NPO法人JCDN(ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)、市民有志による「とりのダンス実行委員会」等と共催した。本事業は、①地域で活動するダンサーに発表の機会を設ける、②コンテンポラリー・ダンスという舞台芸術に多くの人が触れる機会をつくる、③全国各地のダンス・アーティストおよび公演スペース間の相互交流を生み出すことを目的としている。公演には、鳥取大学学生も含め鳥取で活動する2組が、全国から選ばれたダンス・アーティスト4組と共に作品を上演した。

出演者

北村成美(大阪), じゅんじゅん(東京), P'Lush(東京), 白舞寺 White Dance Temple(台湾), 24(弐十四)(鳥大卒業生グループ), EAsy(鳥取グループ)

成果

- ・なじみの薄いコンテンポラリーダンス公演の初開催だったが、大勢の観客を得て実現できた。
- ・大学と創造団体、NPO、さらにダンスやアートマネジメントに関心のある一般市民を交えた協力体制が生まれ、実行委員会を結成し運営できた。以降の開催機運も高まり、2011年度まで、毎年1回開催されている。
- ・鳥取大学卒業生の作品等、地元鳥取の作品を制作・発表することができた。



とりのダンス実行委員会打ち合わせ風景

公演後のアフタートーク



ダンスワークショップの様子



公演の様子(写真提供:鳥の劇場)



EAsy

白舞寺 White Dance Temple



北村成美



じゅんじゅん

開催期日:公演 H19.11.24 WS H19.11.25/場所:鳥の劇場 鳥取市鹿野町

財源:文化庁 平成19年度文化庁芸術団体人材育成支援事業 アサヒビール芸術文化財団助成 鳥取大学地域貢献支援事業
主 催 NPO法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN)
共 催 とりのダンス実行委員会・鳥の劇場・鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
参加者数:公演観客数 216名 ワークショップ(小中学生プログラム33名 大人向けプログラム29名)



上演

ワークショップ

五島 朋子
佐分利育代

事業概要

鳥取県米子市出身の建築家、河田将吾氏を招いた講演会を行った。河田氏は、建築家と名乗りながらも、完成された作品としての建築を建てることには全く興味がないという。むしろ、人と人、あるいは場と人との関係、コミュニケーションやそのプロセスといった目に見えない「関係のデザイン」が、氏にとって最も建築的な関心である。東京・日本橋馬喰町にある築50年木造3階の建築再生プロジェクトでは、ブログやソーシャルネットワークmixiなどインターネットを活用して多様な人を巻き込み、ユニークなコミュニケーションの場を創出してこられた。レクチャーでは、老朽化した木造建物のリノベーション・プロジェクトの実際を見せていただきながら、これまでの建築観を相対化する若手建築家の実践とインターネット社会ならではのコミュニケーション・デザインの可能性について、話題を提供していただいた。

本フォーラムが契機となって、翌年の地域貢献支援事業「パルプロ展」につながった。



フォーラムの様子



河田将吾氏略歴

1977年 鳥取県米子市生まれ。京都工芸繊維大学で建築を学び、河田将吾建築設計事務所設立。オフィスデザインブランド「TEAM☆LAB.NET」を立ち上げる。創造性を発揮できるコミュニケーションを重視した、オフィスインテリアをチーム・ラボ(株)、(株)リクルートなどで展開。

ホームページ <http://www.orpps.com/index.html>

上:河田氏
左:セルフリノベーションした木造建物に集まる若者たち
(いずれも本人提供の写真)

期日: H19 11.28 / 場所: 高砂屋(城下町とっとり交流館) 鳥取市

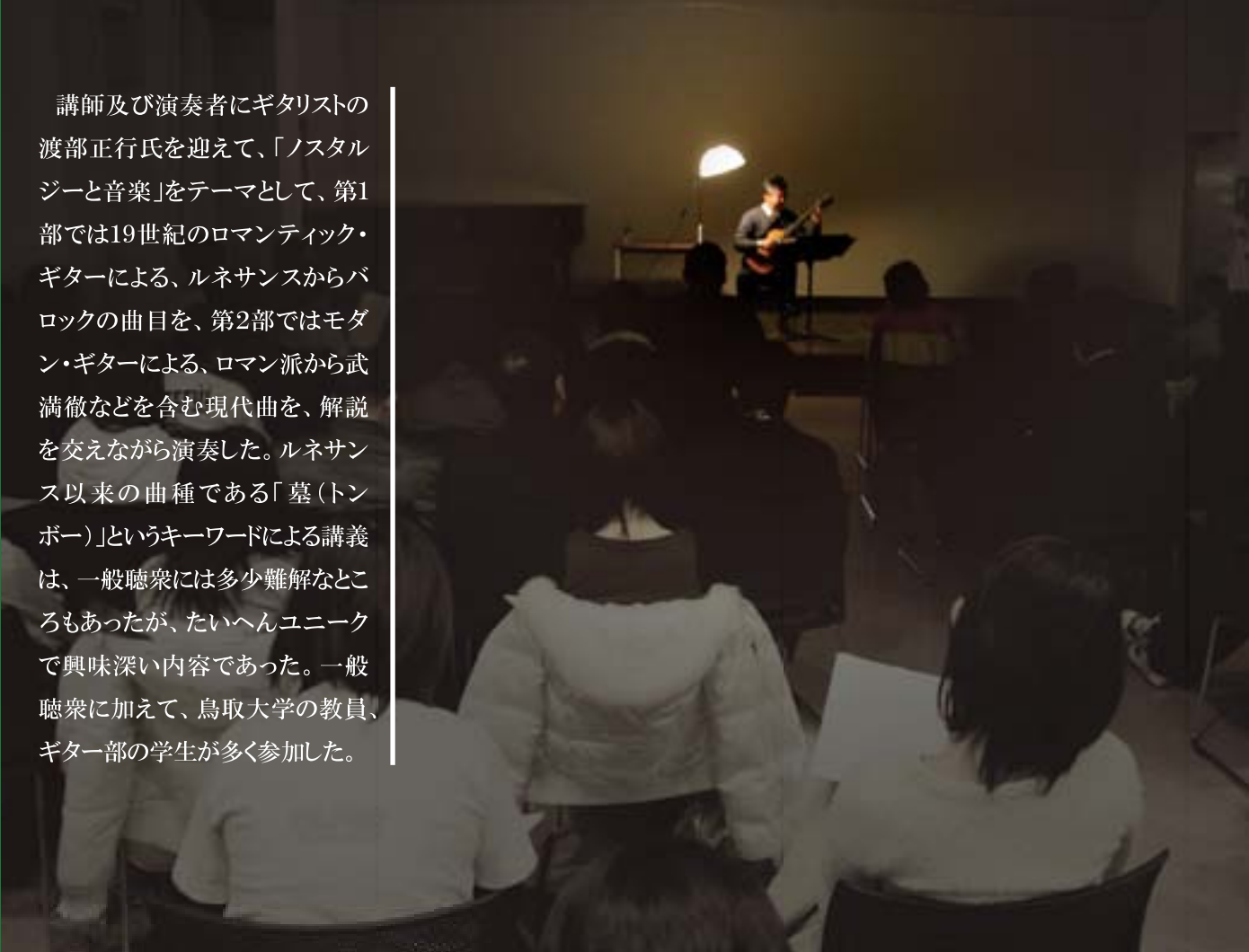
財源: 芸術文化センター運営経費

参加者数: 46名



渡部正行「ノスタルジーと音楽」

講師及び演奏者にギタリストの渡部正行氏を迎えて、「ノスタルジーと音楽」をテーマとして、第1部では19世紀のロマンティック・ギターによる、ルネサンスからバロックの曲目を、第2部ではモダン・ギターによる、ロマン派から武満徹などを含む現代曲を、解説を交えながら演奏した。ルネサンス以来の曲種である「墓(トンボー)」というキーワードによる講義は、一般聴衆には多少難解なところもあったが、たいへんユニークで興味深い内容であった。一般聴衆に加えて、鳥取大学の教員、ギター部の学生が多く参加した。



プログラム

構成・お話し・演奏: 渡部正行

1部「墓、不在の現前」 (19世紀オリジナルギター使用)

メザンジョの墓	エヌモン・ゴーチエ
雷に打たれたファエトン	ドニ・ゴーチエ
ブランシュロシュ氏の死によせるトンボー	J・J・フロベルガー
ハルティヒ男爵の墓	J・S・ヴァイス
アルマンド	J・S・バッハ
葬送行進曲	F・ソル

2部「ノスタルジーと音楽」 (モダンギター使用)

子守唄	F・モンボウ
夜想曲	M・トロローバ
ノスタルジア	ドノスティア神父
歌	M・ボンセ
魔法使いの瞳	L・ブローウェル
ブエノスアイレスの夏	A・ピアソラ
アイネ・ブリュッケ —YABASE IN MY LIFE—	新倉健
ウェインスコット・ボンド —コーネリアス・フォスの絵画から—	武満徹

開催期日: 展示 H19.12.6 / 会場: 鳥取大学アートプラザ

財源: 鳥取大学開放推進事業 / 主催: 芸術文化センター

参加者数: 約60名



講演
上演

新倉
健

事業内容

澄川喜一（彫刻家・島根県芸術文化センター長・元東京芸術大学学長）を講師に迎え、講演会を行った。この催しは、レクチャーシリーズ「山陰ならではのアートマネジメントを探る」の第1回目の位置づけでもある。

2005年秋、島根県益田市に、美術館と劇場を併設する複合施設「島根芸術文化センター・グラントワ」がオープンした。高齢過疎などの地域課題を抱える石見地域で、新設された文化施設が目指すものや伝統的な石見神楽との連携活動の様子などをお話しいた。また、御自身の彫刻作品と野外空間の関係性や、建設予定の新東京タワー・スカイツリーの話、彫刻家になるにあたって大きな影響を及ぼした錦帯橋の話など、自在の語り口に大いに引きつけられた。

成果

彫刻家としても著名な澄川喜一氏は東京芸術大学長を経験しており、その高い教養と見識は一作家を超えて多様な活躍を見せている。澄川氏は芸術文化は地域の人々とのふれあいの中で理解され、やがて地域の人々に応援団になってもらう必要性を説いていた。

鳥取県と同じような地域課題を持つ益田市が芸術文化で地域活性を積極的に押し進めている実践的なお話は、貴重な機会であった。



グラントワ全景



講演

五島 朋子

石谷 孝二

開催期日：H19.12.7 / 会場：鳥取大学アートプラザ

財源：学内予算 / 共催：アートマネジメント学会山陰部会

参加者数：70名



事業内容

芸術文化の持つ特性や魅力を、地域課題の解決へ活かしていく多彩な実践が、国内外で成果を生み出しつつある。このような活動や事業を企画運営する、アートマネジメントの考え方やノウハウを、具体的な実践を行っている方々を招いて学ぶ連続講座を開催した。特に、過疎化、高齢化、若年層の雇用の場確保、交通基盤整備など、同じ山陰で、共通する地域課題を抱えた島根県からも講師を招き、山陰地域での情報や課題を共有することを目指した。

第1回「グラントワ(島根県芸術文化センター)が目指すもの」

講師:澄川喜一氏(彫刻家・島根県芸術文化センター館長・元東京藝術大学学長)

(詳細は、39p)

第2回「安来から世界へ向けて発信する美術館」

講師:安部則男氏(足立美術館学芸課長)

島根県安来市にある私立の「足立美術館」は、日本画コレクションと庭園が調和する美術館として、年間50万人の来館者を集める。また1万3000坪に及ぶ日本庭園は、ここ数年アメリカの日本庭園専門誌でも紹介され、国際的にも知られる。安来出身の事業家故足立全康氏が、その情熱により収集したコレクションをもとに1970年に開設された。開館以来旅行代理店への営業を行っていること、休館日がないこと、住民の方への無料入館券の配布により地域の方の理解を得ること、館内喫茶店の運営・グッズ販売など持てる経営資源の活用等々、現在では公立美術館でも当たり前に取り組まれている美術関係経営のノウハウを、早い時期から展開されていたことが紹介された。

第2回 会場の様子



庭園が美しい足立美術館(写真提供:足立美術館)



安部氏

開催期日:第1回H19.12.7 第2回H19.12.12 第3回H19.12.17/場所:鳥取大学アートプラザ

財源:地域貢献支援事業費事業

参加者数(内訳):第1回 76名/第2回 18名/第3回 42名





松本氏

第3回「展覧会をプロデュースする」

講師：松本健一氏（ギャラリー栄光舎）

東京でプロの劇団に所属し、俳優として活躍した後帰郷し、1983年にギャラリー栄光舎を開業されたという、ユニークなバックグラウンドを持つ松本氏にお話して頂いた。特に、氏が数年をかけてワシントンで開催している企画展を中心に、その趣旨・考え方、作家との関係づくり、さらには顧客との関係づくりなどについて、ご自身の俳優という経歴とも関連させながら紹介して頂いた。濃密なギャラリー空間を構成するのは舞台演出にも似ていると指摘され、作家とギャラリストの作品製作における共同作業の魅力、顧客へ作品の価値を手渡していく醍醐味など、個人ギャラリーならではの運営のポイントを興味深く提示して頂いた。

第3回 会場の様子



鳥取市内にあるギャラリー栄光舎

成 果

- ・山陰の芸術文化施設は、官民を問わず、過疎、交通基盤の未成熟など共通する困難な状況のなかで、工夫に満ちたきめ細やかな対応をされていることが具体的に示された。地域の様々な課題に応えながら事業を展開して行くという、地域におけるアートマネジメントのあり方を参加者と共有できた。
- ・講師が提供する話題はいずれも興味深く、特に自ら芸術文化活動の企画・運営などアートマネジメントの実践に携わっている参加者にとって、示唆に富む内容であった。

課 題

- ・単発に終わらず、関心の高い参加者との研究会、交流を継続する必要がある。

事業内容

鳥取在住で全国的に活躍しているジャズピアニストで作曲家の菊池ひみこ氏をゲストに迎え、一般の人にジャズの音楽的な特質や歴史を紐解くジャズの入門講座を行った。ジャズの歴史、クラシックとの違い、メロディーやハーモニーの特質、アドリブなどについてピアノの演奏や歴史的映像を交えながら分かりやすい解説を行い、最後に鳥取大学のジャズ研サークルの学生とのセッションを行った。一般聴衆に加えて鳥取大学のジャズ研の学生が多く聴講した。



成果

- ①地域住民が大学を訪れ、楽しみながら芸術文化を学ぶ機会を提供することが出来た。
- ②地域住民の大学に対するイメージアップ(芸術文化の発信、生涯学習への貢献、大学の開放性)をはかることができた。
- ③学内の学生や教職員の入場が比較的多く、特に学生の入場や参加が目立った。



開催期日： H19.12.14 / 会場：鳥取大学アートプラザ

財源：鳥取大学開放推進事業 / 主催：芸術文化センター

参加者数：約80名



事業内容

第1回

学生が白兔養護学校訪問学級に出向き、ミュージカルを上演すると共に、訪問学級生徒との交流を行った。照明、大道具等は会場の都合で簡易なものであるが、外出の機会が持てない訪問学級の生徒との交流は学生諸君にとっても貴重な経験であった。

第2回

鳥取大学附属養護学校及び鳥取大学附属幼稚園の生徒・園児等を招待し(バスで送迎)県民文化会館小ホールにおいて公演を行った。照明、大道具などの舞台上の演出が小ホールの特性を生かして可能になり、楽しめる舞台となった。照明などの舞台スタッフとして鳥取大学演劇部の学生、



音楽演奏として鳥取大学フィルハーモニー管弦楽団の有志の参加を得た。

第3回

内容的には第2回と同じである。第3回ではチラシなどの広報により一般県民への公開を行った。

成果など

- ①大学での学修の成果を地域に公開することにより、地域に開かれた大学のあり方を示すことが出来た。
- ②ふだん舞台芸術に接する機会の限られている、養護学校生徒や幼稚園児に鑑賞の機会を提供することが出来た。
- ③地域に公開するという目標を持つことにより、授業に対する学生の自主的な意欲を高めることが出来た。



第1回 期日:H20.2.22/会場:白兔特別支援学校訪問学級 第2・3回 期日:H20.2.27/会場:鳥取県民文化会館小ホール

財源:芸術文化センター 鳥取大学開放推進事業 財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団助成事業
主催:地域学部附属芸術文化センター「アルデフェスタ」
参加者数:約230名(延べ人数)



作曲工房「パパゲーノ」

〜コレクションⅡ '08〜

主催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
共催：作曲工房「パパゲーノ」

ムジコラボとは…
本発表会のテーマである、
Music (音楽)
と
Collaboration (合作)
を合わせた造語です。



MUSIC COLLABO

ムジコラボ

鳥取で作曲活動
をする者たちが、作曲した作品
を発表する演奏会。Music (音楽) と多様なジャ
ンルの芸術とのCollaboration (合作) を試みるこ
とを本発表会のテーマとし、「ムジコラボ」というタイ
トルで発表を行なった。
作曲とのコラボレーションの対象は、詩、絵本、
物語、朗読、シルエット、写真などと出品者に
よって多様な試みがなされた。演奏の質を向上
させていくということが大きな課
題として残った。

中井 暁子
× 詩
「ぼく」

上萬 雅洋
× 写真
弦楽四重奏曲 第二番
「海」

新倉 健
× 絵本
音の絵本 I
「モチモチの木」

飯山 真吾
× 物語
リコーダー組曲
第1番「夜」

木下 俊吾
× 朗読
「狼少年の涙」

中村 奈保
× 詩
川崎 洋詩
「わが愛するチャップリンが」
塚田 洋子詩集
『水の扉』より「水の扉」

中谷 恭隆
× 詩
弦楽四重奏のための組曲 第一番
「思考の断片」より

小笠原 優
× シルエット
「心の中に」

2008 年 3 月 8 日 (土) 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター内
PM 1:30 開場 PM 2:00 開演 アートプラザ I **入場無料**
(整理券が必要です)
●お問い合わせ
090-3371-7478 (上萬) / 0857-31-5121 (鳥取大学地域学部 新倉研究室)

鳥取大学地域学部附属
芸術文化センター
アルデフェスタ
2007

開催期日： H20.3.8 / 会場：鳥取大学アートプラザ

財源：芸術文化センター / 主催：芸術文化センター 共催：作曲工房「パパゲーノ」

参加者数： 約50名



アンケート調査の目的

鳥取県出身の演出家中島諒氏が率いる劇団「鳥の劇場」が、旧鹿野小学校体育館と幼稚園を拠点に、劇団活動を始めて2年目となる。地方の小さな町に「劇場」を構えて、作品創造や定期的な公演活動を職業として行っていく例は、日本では稀である。そもそも舞台芸術上演が少ない地方では、芸術家が居る「劇場」が果たす役割は、大都市以上に大きな影響力と可能性があるのではないだろうか。鳥の劇場の観客がどのように捉えているのか、アンケート調査を行った。

アンケート調査概要

「2007年春のプログラム」3作品連続上演期間に、観客アンケートを実施した。

アンケート配布数 1,109(総観客数)

調査方法 公演日当日劇場にて全員に配布。観劇後回収。

実施年月日 2007年5月4～6日 6月1～3日 7月6～8日

回収結果 有効回答数 424 回答率(有効回答数/配布数) = 38.2%

アンケートでは、以下の3点を把握するよう、調査項目を設定した。

- ①「鳥の劇場」の観客のプロフィール及び、どのような関心や期待で来場しているのかを把握する
- ②観劇前後の観客の行動なども含め、観劇客の鹿野町への関わりを把握する
- ③現在の「鳥の劇場」の観客が、演劇や劇場に求める機能・役割を把握する

アンケート調査結果概要

どんな人が来ているのか？

女性が占める割合が63%と多く、年齢層は50代が一番多く25%、次いで40代の20%、30代、20代の18%となっている。鳥取市内の観客が63%、県外からも毎回1割前後の観客が訪れる。

連れ立って観劇に来ている人が73%と圧倒的に多く、その内訳を見ると夫婦が21%と多く、他に、近所の知人、サークルや同じ趣味の友人、兄妹等と誘い合わせて、観劇を楽しんでいる。

「鳥の劇場」に期待するポイント

60.2% 質の高い演劇作品を継続的につくり、全国レベルの劇団として活躍する

30.1% 一般向けの講座やレクチャーを開催し、演劇の魅力を伝える

24.7% 国内外の優れた演劇人との交流拠点となるような活動を目指す

24.4% 演劇に携わる人材育成を担う地域の拠点として活動する

22.7% 小中学生を対象とした演劇を活かしてワークショップを開催し、コミュニケーション能力や表現力の育成に寄与する

22.4% 鳥取県外での作品上演活動を積極的に行い、鳥取県ならではの文化を発信する

20.5% 鹿野町のまちづくりと連携した文化イベントを企画・運営し、まちの活性化に寄与する

17.6% 分かりやすく楽しいエンターテインメント性の高い作品を上演し、県内外から大勢の観客を動員する

7.1% 高齢者向けの演劇ワークショップを開催し、生き甲斐づくりや健康づくりに寄与する

4.5% その他

まとめ

「鳥の劇場」という劇団が拠点を構えて、継続的・定期的な公演活動を行うことで、次のような成果を上げつつあると指摘できる。

- ・鳥取では上演の少ない現代演劇に触れる機会を提供し、県民に芸術へのアクセスを高めている。
- ・これまで関心の無かった県民が足を運ぶきっかけを創り出している。
- ・多様な地域資源を活用しながら、交流人口を増やし町の魅力を高めてきた鹿野町にとって、新たなプロフィールを持つ訪問客を惹きつける要素となっている。

調査期間：H19.5～H20.3

財源：地域貢献支援事業

以上の調査結果については、報告書にまとめて発行した。



調査・研究

五島
朋子

45